

サポートルームだより

0123

2024年5月9日 No.2
町田市立南成瀬小学校
サポートルーム拠点校
校長 吉成 美紀
サポートルーム担当

新学年が始まり、1か月が経ちました。新しい環境には慣れてきたでしょうか。運動会の練習も始まりました。急な予定変更や暑い中の待ちなど、子供たちにとって苦手なことが続きます。日々の頑張りをねぎらい、充電できるようにご配慮ください。

結果よりもお子さんの頑張りの過程を褒めることが、人と比べず、折れない心「レジリエンス」を育てることにつながります。

今後の主な予定

5月25日(土)	南成瀬小・高ヶ坂小運動会
5月27日(月)	振替休業日のため指導なし
6月4日(月)~7日(金)	指導調整期間
7月8日(月)	サポートルーム指導終了

運動会について

各校運動会の特別時間割が始まるにあたり、以下のように対応します。

- ・運動会練習がサポートルームの指導と重なる → 運動会練習を優先します。
- ・運動会が延期になった→サポートルームの指導は在籍校の時間割に準じて行います。

※サポートルームの指導を優先しても運動会練習に差し支えないと在籍学級の担任が判断した場合は、サポートルームの指導を優先することもあります。

※運動会の練習時間とサポートルームの指導時間が重なったとき、サポートルームの指導を優先したい場合は、連絡帳にてお知らせください。何かご質問がありましたら、巡回指導教員もしくは専門員までお尋ねください。

おねがい

サポートルームに行く際は、**手さげ袋・筆箱・連絡帳・水筒**を持たせてください。

「手提げなんて、持っていかなくてもいいよ。」というお子さんがいるかもしれません。レジ袋が有料化され、我々大人も多少無理してでも袋に入れず持ち帰ることはありますが、落としてしまうこともありますね。たくさんの荷物を手で持って行くよりも、手提げを使ったほうがうまくいく、ということをご家庭でも伝えていただけると助かります。

サポートルームの

子供たちの学びや気づき

ソーシャルスキル「気持ちをそろえて」

会話をするとき、自分が知らない話題だと、うまく続かないものです。相手を知っている言葉を選んでいくことが、コミュニケーションをとるために必要です。とくに、特定の分野に詳しい子は相手も知っているだろうと考え、相手の知らない話題を出すこともあります。

この活動は、お題に合った言葉を子供たち一人一人が考え、ミニホワイトボードに書きます。書いた言葉を一斉に示し、言葉がそろっていれば成功という内容です。

例題『赤い果物』では、「リンゴ」「イチゴ」「サクランボ」「ドラゴンフルーツ」などの答えが挙がりました。どれも間違いではありません。「より多く見たり、使ったりするものを言葉として選ぶと、そろいやすくなるよ。」と助言し、視点を与えたことで、サクランボよりはリンゴのほうがよく見かけると気づきました。考える視点を持ったことで、「酸っぱい食べ物」では「レモン」「梅干し」と迷った子も、唐揚げでよく添えてあるのはレモンと考え、答えが揃うようになりました。このように、一般的で、定番の言葉を選んでいくとよいことを学んでいます。



高学年では、一歩進めて、「このグループだったら」「〇〇さんだったら」と条件を設定することで、相手の立場に立って考えられるようにしました。「紙を切る道具」だったら、「一般的には『はさみ』だけれど、このグループだったら『カッター』のように、相手のことを考えて言葉を選ぶことで、相手のことを考えることにもつなげています。

違う言葉を選んだとしても、それを責めるのではなく、「そういう考えもある」「確かに」と受け止めることも大切なスキルです。自分とは違う考えを認めることも、サポートルームで大切にしているところです。